

2022年1月31日

株式会社三菱UFJ銀行

世界初の大型スペースデブリ除去技術実証に向けた 株式会社アストロスケールへの融資実行について

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一^{はんざわ じゅんいち}、以下 当行）は、株式会社アストロスケール（代表取締役 小山 貴義^{こやま たかよし}、以下 アストロスケール）に対し、日本政策金融公庫（総裁 田中 一穂^{たなか かずほ}）と連携し、本日付で融資（以下 本ローン）を実行いたしました。本ローンは、世界初の大型デブリ除去等の技術実証を目指す、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の商業デブリ除去実証フェーズ1を遂行するための資金として活用されます。

宇宙産業は、2040年には市場規模がUSD1.1兆ドルに達する^[1]とも言われ、世界で最も成長する市場の1つです。人工衛星データ利用による自然災害監視や農林・海洋保護、宇宙の微小重力環境を利用した宇宙医学は持続可能な開発目標（SDGs）への貢献も大きく、内閣府が定める「宇宙基本計画^[2]」（2020年6月閣議決定）でもその重要性が言及されています。一方で、宇宙軌道上を高速で周回する破損した人工衛星やロケット上段、その破片などのスペースデブリが持続可能な宇宙開発を行う上で深刻な問題となっており、2021年の主要7ヶ国首脳会議（G7サミット）では「宇宙の安全で持続可能な開発」に関する共同声明が発表されました。

アストロスケールは、軌道上サービスに取り組む世界初の民間企業である株式会社 アストロスケールホールディングス（代表取締役CEO 岡田 光信^{おかだ みつのぶ}）の日本子会社として、「将来の世代の利益のための安全で持続可能な宇宙開発」を経営ビジョンに掲げ、2015年の創業以降一貫してスペースデブリ除去に関する技術開発に取り組んでいます。また、各国政府とも協力し、宇宙の責任ある利用に向けた国際的な規範・規制の構築にも積極的に取り組んでいます。

当行は、本ローンを通じて、持続可能な宇宙開発実現に向けた世界初の大型スペースデブリ除去などの技術実証を目指す技術実証商業デブリ除去実証フェーズ1を支援するとともに、先進的な宇宙産業への関与を起点として、世界的な宇宙関連事業への取り組みを加速してまいりたいと考えております。当行は引き続き、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めてまいります。

【本ローンの概要】

契約締結日	2022年1月14日
実行日	2022年1月31日
金額	30億円
契約期間	1年（最長2年3ヶ月）
資金使途	事業資金
貸出人	当行、日本政策金融公庫

[1] [Morgan Stanleyレポート:Investment Implications of the Final Frontier](#)

[2] [宇宙基本計画の変更について\(令和2年6月30日閣議決定\)](#)